整理番号	77-3-3

現況分析における顕著な変化についての説明書（教育／研究）

法人名　九州大学　　学部・研究科等名　比較社会文化学府

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅲ「教育方法」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」

標記の観点について平成 18 年度学生アンケート調査でやや厳しい評価があったことから、各指導教員団で有機的連携を増す努力を重ね、学府 FD や教務学生委員会で全体的なチェックを行いながら、集団指導体制のもとで論文指導とコースワークをよりよく機能させるべく改善に努めてきた。また、従来の院生研究室を分野ごとに編成変えし、分野ごとの実習室を新たに設けて学生との日常的指導の機会を増加させた。さらに、これらの改善の一環として、従来の隔年的・総合的な学生アンケートでは授業評価の把握が不正確であるとの反省にたち、平成 21 年度から授業評価を独立になおかつ各期末に実施する方式にした。これにより教育方法の細やかな点検と改善へのフィードバックを行う体制を整えた。この授業評価の結果をみると、学生の評価における指導教員団の機能性は大幅に改善し、良好な水準にある（資料Ⅲ－Ａ）。また授業・指導の学位論文執筆にむけたコースワーク効果も、良好な水準に改善している（資料Ⅲ－Ｂ）。この水準を維持するために、指導教員団と学生が半期ごとに指導状況・目標達成状況を相互チェックする制度（「前・後期博士論文執筆計画」）を、平成 22 年度から実施する体制を整えた。

資料Ⅲ－Ａ　指導教員団の評価（平成 21 年度学府授業評価）

今期を振り返って、複数指導教員団制度は次の点でうまくいっているか？（前後期合併、延べ 169 人）	YES ＋＋	YES ＋	NO ＋	NO ＋＋	DK
論文指導について	62.7	24.9	4.1	3.6	4.7
授業運営について	63.9	21.3	4.7	3.0	7.1
進路指導について	50.3	22.5	7.1	4.7	15.4
自分の研究関心に合った指導教員団の編成	62.7	22.5	6.5	3.0	5.3

資料Ⅲ―Ｂ　授業・指導のコースワーク効果（平成 21 年度学府授業評価）

今期のゼミや指導は論文執筆に関わる次の点で―「『ある程度』以上役立っている」の％	前期（77 人中）	後期（92 人中）
論文のテーマ設定	72.7	71.7
論文に必要な文献・資料	62.3	63.0
論文に必要な調査・実験の実施方法	61.0	63.0
論文の内容構成	57.1	71.7